

暁のヨナ 第2話

タイトル: ちぎれた絆

キャラ リスト:

ヨナ、ソン・ハク、スウォン、ケイシュク、ミンス、ユホン、ジユド、兵士たち

Japanese script from HorribleSubs (kitsuneko.net)

English translation from unknown translator (GoGoAnime subtitles)

Transcribed and organized by Kiriban

Do not ask for permission to edit. Please read my [FAQ](#) for more usage details.

ヨナ ス...スウォン...早く...医務官を...！

スウォン イル陛下はもう目を開けません。

ヨナ えっ？

スウォン 私が殺しました。

ヨナ ハッ！

 何を言って...。

 あ...あなたはそんな事...出来る人じゃ...。

スウォン あなたは知らない...私がこの日の為に生きてきた事を。

ハク やけに静かだ。

兵士1 では、まだ誰一人気付いてないのだな。

兵士2 はい。賓客も文官達も皆、宴の酒に酔い、正体なく眠り込んでいます。

兵士1 そっか。

兵士3 ハク將軍の動きのみが気掛かりですが...。

ハク だれが気掛かりだって？

聞かせて貰おうか？詳しく。

ヨナ な...なぜ？

父上は...あなたを幼い頃からとても可愛がって...

スウォン そうですね。私もイル陛下が大好きでしたよ。

争いを恐れる臆病者だと囁かれても、それが陛下の優しさなのだと、以前は信じていました。

でもそうではなかった。そうではなかったんです。

私の父、ユホンを覚えていますか？

ヨナ (考え) 伯父上...

スウォン 父上は、幼少期より勇猛果敢で利発。

成人して軍を率いれば、常に勝利を収め、誰もが次期国王となる事を望み、それを疑わなかった。

だが十年前、先王ジュナムがこの高華王國の王に選んだのは、父ユホンではなく、伯父のイルでした。

皆理解出来なかった。

王位継承権は長男にあるのに、なぜ軟弱なイル様をお選びになられたと？

しかし、父上はいつも笑っていました。

ユホン (過去) 王座など俺には些末事。

(過去) 俺は弟を守り、民を守る為に、前線で戦い続けようぞ。

スウォン 私はそんな父上を誇り、深く敬愛した。

何時か共に戦場に立ち、この命を父上の為に捧げようと思っていたのに...。

王位に就いた後、ある御事かイル陛下は、実の兄であるユホンを殺害したのです。

ヨナ そんな...伯父上は事故で...

スウオン 表向きはそうですね。

ヨナ えっ？

スウオン けれど父上は、イル陛下に剣で刺されて亡くなった。

分かりますか。

武器を嫌い、争いを避けていたはずのイル陛下が...父上を剣で殺したのです。

ヨナ 嘘...。そんなの...嘘...。

スウオン それが真実です。

父上の敵を討ち、父上の遺志を受け継ぐ者として、私はこの高華の王となる。

ヨナ (考え) 嘘...。

(考え) これは夢...。悪い夢よ...。

(考え) だってスウオン...あなたはあんなに優しく笑って...

スウオン (過去) 私は好きですよ、ヨナの髪。

ヨナ (考え) ...簪を...この簪をくれたじゃない？

スウオン あなたがこんな真夜中に起きていたのは誤算でした。

陛下の部屋にも滅多に立ち寄らないと聞いていたのに、なぜ来たのです？ヨナ姫。

ヨナ 伝えたくて...。

スウオン ん？

ヨナ 私は...スウオンを忘れる事は出来ないと...父上に...伝えたくて...！

ケイシュク スウオン様。

スウオン ケイシュク。

ケイシュク 準備全て整いました。

本懐を遂げられたのですね。

まさか...ヨナ姫に？

ならば話は早い。

殺してお仕舞いなさい、スウォン様。姫の口を封じるのです。

ヨナ スウォン？

ああっ！

ケイシュク 消せ！騒ぎ気取られてはまずい！

兵士1 はい！

スウォン 捕まえてください。

兵士2 はい！

ヨナ (考え) 誰...あの人は誰？

(考え) 父上を殺し、私を殺そうとするあの人は...スウォンじゃない！

(考え) 私の大好きなスウォンじゃない！

ああっ！

兵士3 お覚悟、姫様。これも高華国の為なのです。

ヨナ (考え) 私は...憎まれていたの？

(考え) 幼い頃からずっと...ずっとスウォンだけだったのに....。

(考え) 多くを望んだ訳じゃない....。

(考え) スウォンの笑顔が見られれば、それでよかったのに....。

スウォン！

ハク はあーっ！

今夜はスウォン様がいらっしゃるから、邪魔者は遠慮したつもりだったんですがね。

見張りだったはずの守備隊は、ここに勢揃いしてるし、見知らぬ輩も嫌がりますし....。

これは一体どう言う事ですか？

なあ？スウォン様。

ヨナ ハ...ハク？

ハク ああ？

お側を離れて申し訳ありません、ヨナ姫様。

ヨナ ハク...。

ハクは...私の見方？

ハク 俺は陛下から...あんたを守ると言われている。

何があろうと俺は...それに絶対服従する！

ケイシュク 控えよ、下郎。今より緋龍城の主となったスウォン陛下の御前なるぞ。

ハク 誰が何の主だって？

どうも嫌な予感がするんですがね。スウォン様、イル陛下はどこにおられる？

スウォン 私が先程...地獄へ送って差し上げた。

ハク 酒にでも酔っておいでか？

戯言にしては度が過ぎますよ。

スウォン ヨナ姫に聞いてみるといい。その目で、王の死を確かめられたのだから。

ハク くっ！ああっ！！

真実を言え！

スウォン 偽りではありません。

ハク スウォン！国王を弑逆したと？！

お前が...あの優しい王を？！

ケイシュク スウォン様！

スウォン 下がっていなさい。近付けば首が飛びますよ。

目の前に居るのはソン・ハクです。

ケイシュク この男が…。

スウォン そう。彼はこの緋龍城の要、五將軍の一人…。

ケイシュク 高華の雷獸…。

ハク スウォン、何故だ？王位の篡奪か？

いや…お前はそんな物に執着する奴じゃないだろう？！

武器を厭う心優しき王に、刃を向けたのか？！

テメエの誇りがそれを許したのか？！

スウォン 優しさか？

か弱き王など、この国には必要ない！

ハク ああーっ！！

ケイシュク ソン・ハク…風の部族の前族長、ソン・ムンドクの孫であり、若くして族長の座を就いた男。

その大刀での一撃は稲妻の様であり、高華の雷獸とも異名を持つ。

ふん…。

兵士4 えっ？

ハク うおおーっ！！

ケイシュク そこまでだ！

兵士1 武器を抛け、雷獸。

ハク ふん…。

ケイシュク スウォン様、ご無事ですか？

ハク スウォン。

俺が見ていたスウォンは幻だったのか？

お前になら、姫を任せてもいいと思っていた。

ケイシュク 愚かな。五將軍の一人と言えど、所詮はまだ若い。

ハク なに？

ケイシュク 高華王国はこのままでは時を迂闊滅亡する。

緋龍城で安念を貪ってきたあなたやヨナ姫に、スウォン様のお心を推し量る事など…。

スウォン 口を慎みなさい、ケイシュク。

ハク どう言う意味だ？

スウォン 貴方達の知っていたスウォンは、最初から居なかったんです。

道を阻む者があれば切り捨てます。誰であろうと。

ヨナ (考え) 聞きたくない…。もう何も聞きたくないの…！

兵士2 なっ？！

ケイシュク 護衛！逃がすな！

兵士たち はい！

ミンス こちらです、ハク將軍！

ハク お前か？ミンス。さっきの下手くその矢は！

ミンス えっ？あっ！

ハク 姫様を連れて付いてこい。離れるなよ。

ミンス は…はい。

ハク 退け！

こちだ！

ミンス はい。

ハク将軍！後ろへ！

ハク 一先ず、何処かに身を隠そう。

ミス そうですね。

ハク 行くぞ。

ミス はい。

ミス 切りがないですね。

ハク ん…。

ミス 姫様…イル陛下は本当に亡くなられたのですか？

そうですか…。

申し訳ありません。どうしても信じられなくて…。

つい先程まで、姫様のお誕生日だと幸せそうに笑っていたのに…。

ハク 見つかるのも時間の問題だな。

ミス 城内には、スウォン様が率いてきた兵とスウォン様を支持する兵が集まりつつあります。

ハク 捉まれば間違いなく殺される…か。

ミス はい。

私が逃げ道を確保します。

お二人はこの城から脱出して下さい。

ハク だがお前は…。

ミス ご心配なく。必ず逃げ切って見せます。

ハク ん…。

兵士1 この辺りいるはずだ！探せ！

兵士たち はい！

ハク 裏門の前に兵が六人。伏兵も…。

 ミンス！お前…。

ミンス 私が引き付けます。その隙に脱出を。

 姫様、どうかご無事で。

兵士2 居たぞ！

兵士3 あっちだ！逃がすな！

ハク ミンス…。

 姫さん！早く！

兵士1 居たぞ！こっちだ！

ミンス (考え) 姫様…陛下…。

ケイシュク 裏山の方に逃げた様です。直ちに山狩り隊を組織致します。

スウォン ハク將軍は峻険な山里、風牙の都の育ち。

 姫を連れているとは言え、城の者達では発見は難しいでしょう。

ハク ヨナ姫。少し休みますか？

ヨナ ミンスは…死んじゃったの？

 私も…死ぬのかな？

 ハクもスウォンに…殺されて…。

ハク あんなくそつたれにやる命何て、持ち合わせてねえですよ。

ヨナ 死なないでね、ハク…。

ハク ああ？

ヨナ 死んだら…許さない…から…。

ハク (考え) まだ信じられねえな…。

(考え) イル陛下が死んだ何て…姫を一人にして…。

(考え) しょうもねえ王様だよ。

(考え) スウォン…。

ケイシュク 申し訳ありません。夜通し山狩りを行わせてはいるのですが、未だ。

スウォン 城内の様子は？

ケイシュク 次第に異変を察知し、騒ぎが広まりつつあります。

兵士1 ジュド將軍、一体何が？

兵士2 賊の仕業なのか？

ジュド 急ぎ調べを進めています。

ケイシュク 如何なさいますか？スウォン様。

ハク 行きましょう、姫様。追手が来る。

ヨナ どこへ…行くの？

ハク ん？

ヨナ 私、宴の時、父上が泣いて喜んでいたのに…一言も言わなかったわ。ありがとうって…。

なのに、父上を置いて、どこへ？どこへ行くと言うの？

ハク…。

ハク どこへでも行きますよ。あんたが生き延びられるなら。

それが…陛下への思いの返し方です。

ヨナ (叙事) 十六歳の誕生日。

(叙事) あの夜、私は家族を、帰る場所を、思い人を、沢山な物を失った。

(叙事) そして、今に繋がる出会いがあった。

兵士1 ん？

兵士2 うおおっ！

兵士3 あれは？！

兵士4 打て！

何者だ？！

兵士5 また新た敵！

ヨナ 大人しく去る！この高華国から！

この国を好きにはさせない！

兵士5 己！

なに？！

ヨナ (考え) 私は生きる。亡き父上の思いに...仲間達に...報いる為に！